

## (6) 放課後等デイサービスの現状と課題

### —支援者へのインタビュー調査を通じて—

医療福祉学研究科医療福祉学専攻博士後期課程 ○泉 宗孝  
医療福祉学研究科医療福祉学専攻 後藤 祐之  
医療福祉学研究科医療福祉学専攻 岡本 宣雄

#### 【目的】

放課後デイの支援者へのインタビュー調査から、放課後デイでの支援状況、支援内容等の必要性に関する支援者評価を把握し、放課後デイに関する課題について明らかにする。なお、今回の発表では支援者の「本人支援の現状およびニーズ・意欲」について報告を行う。

#### 【方法】

調査対象は、同県内で社会福祉法人が運営する放課後等デイサービス事業所（4事業所）の支援者10名である。調査期間は2022（令和4）年9月～2023（令和5）年2月である。半構造化面接法により、放課後等デイサービスガイドラインの基本的役割などについてインタビュー調査を実施した。分析方法はインタビュー内容から逐語録を作成し、質的データ分析ソフトMAXQDA2022を用い、本研究の目的に即し、記述にコードを付けた。

#### 【結果】

カテゴリーを【】、中カテゴリーを< >、小カテゴリーを< >、コードは〔 〕で示す。支援者は、<こどもの様子や発達段階のアセスメント>などの<こどもの年齢・成長に合わせた個別支援>を重視しながら、<集団活動によるコミュニケーション

能力の獲得および向上>のために<仲間づくりを意識した集団支援>も行っている。これらの実践は、<「生きる力」や「自立支援」を意識した働きかけ>につながり、<こども中心の支援>の実現を目指していた。また、支援者は、<療育への戸惑いや専門性への不安>など<支援者の困難感>を抱えながらも、今後に向けた<こども中心の支援に向けたニーズ・意欲>を持っているという【本人支援の現状およびニーズ・意欲】が明らかになった。

#### 【考察】

支援者評価では、<こどもの年齢・成長に合わせた個別支援>によって日常生活や社会生活を円滑に営む力と同時に、<仲間づくりを意識した集団支援>により他者と関わることへの関心も育んでいた。ガイドラインでは「本人支援」の目標は『こどもが様々な遊びや学び、多様な体験活動を通じて生きる力を育むとともに、将来、日常生活や社会生活を円滑に営めるようにするもの』としている。こどもの将来を見据えた<「生きる力」や「自立支援」を意識した働きかけ>、<こども中心の支援に向けたニーズ・意欲>を充足することで<こども中心の支援>を目指していることが明らかになった。